



不忘山

平成29年
3月22日
第28号
(文責：教頭)

「はやね はやおき あさごはん」、交通ルールを守りましょう！

(学校のホームページ → www.fukuoka-e.shiroishi-c.ed.jp/)



39名の巣立ち…おめでとう

17日(金)、春うららかな中、39名の子供たちの卒業式が、厳粛な中で行われました。

子供たちは、母校への別れの寂しさと中学校生活に向けた期待で一杯の、凜々しい表情で式に臨んでいました。卒業証書授与では、一人ひとり緊張しながらも立派な立ち居振る舞いでステージに立ち、校長先生より証書を受け取り、中学校に向けての抱負や将来の夢を堂々と話してからステージを下りました。自分の座席まで戻るその時間は緊張の連続であったに違いありません。

その後、校長式辞、教育委員会からの挨拶(武田教育長先生)、祝辞(佐藤PTA会長さん)と続きましたが、しっかりと話を聞いていました。

『別れの言葉』では、一人ひとりが堂々と自分のせりふを話し、三部合唱『未来へ・・・』と二部合唱『遠い日の歌』を心を込めて、とても澄んだ声できれいに歌い上げました。

会場には、保護者の皆様をはじめ、たくさんの地域の方々においでいただき、子供たちのこれまでの活躍と中学校でのさらなる飛躍に対し、温かいねぎらいと祝福をいただきました。

卒業生の皆さんが迎える新しい生活が、ますます輝く毎日になりますようご祈念申し上げます。ご卒業、おめでとうございます。



<6年1組>



<6年2組>

こうして39名の子供たちは、立派に巣立っていきました。

卒業式を支えた5年生

今年も、5年生はしっかりと卒業式を支えました。前日の準備では仕事を分担しててきぱきと働き、式場の準備、6年生の教室の飾り付け、昇降口の掃除などを一生懸命にしていました。

卒業式当日も、朝早くから登校する子もいて、6年生の教室に行って徽章を渡したり、付けてあげたり、掃除をしたり。

来賓の受付は4人の男子が担当しました。来賓の方が玄関に入られると、元気にあいさつをし、卒業のしおりの入った袋を渡し、ていねいな言葉遣いで校長室に案内していました。

卒業式でも大変に立派な態度で参列し、贈る言葉では体育館に響き渡る声で語り、二部合唱『空より高く』をきれいな声で歌い上げ、こちらも素晴らしいものでした。卒業生の退場では、『威風堂々』の生演奏で送りました。上の2枚の画像は式後の様子です。自分たちが退場曲を演奏するために使った楽器を片付け、また卒業生の保護者に鉢花を袋に入れて2つずつ渡していました。

6年生が卒業した今、5年生が最上級生です。これからは彼らが福岡小をリードしていくのです。





スキンシップしてますか？

最近、お子さんとスキンシップをされていますか。

しばらく前になりますが、河北新報に興味深い記事が出ていました。桜美林大学准教授の山口創氏が書かれたものですが、以下に一部を引用します。

子どもはスキンシップが十分ないと人として生きていくことも難しくなってしまいます。

13世紀、神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世は人が最初にしゃべる言葉が何かを確かめるため、ある実験を行いました。彼は50人の赤ちゃんを乳母たちを集め命令をしました。

「赤ちゃんにおっぱいを飲ませ、おむつを替え、お風呂に入れ、寝かせなさい。

ただし、一言も話しかけてはならない。抱いてかわいがることも禁じる」

この実験の結果は予想外でした。50人全員が、1歳の誕生日を迎えることなく亡くなったといわれています。十分な栄養や清潔が保たれていたにもかかわらず、赤ちゃんが全員死んでしまったのです。その原因は、スキンシップがないことからストレスが高まって、成長ホルモンが分泌されなくなったからだと考えられています。

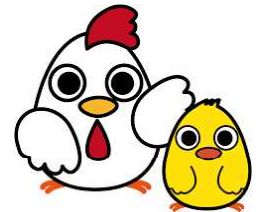
この実験についてはだいぶ前に聞いたことがありましたが、改めて読んでみると、ただ驚くばかりです。山口氏は続けて次のように書いています。

それでは、スキンシップをしてあげると、子どもにはどんな影響があるのでしょうか。筆者の研究では、母親が触れると子どもの情緒が安定し、父親が触れると社会性を伸ばす効果が確かめられています。

さらに子ども同士の触れ合いも忘れてはいけません。ゲーム機や携帯電話を介した最近のバーチャルなコミュニケーションばかりの友人関係からは、相手との共感や思いやり、距離のとり方などは育まれません。

親子のスキンシップの大切さを改めて感じた次第です。あわせて、子どもの遊びの在り方についても改めて考えさせられました。

スキンシップできるのも、小学生時代まででしょうか。これからも親子のスキンシップを大切にしていきたいものと思います。



スキンシップといえば、最近の若いお母さんの中には、スマートフォンを見ながら母乳を与えるということがあるとか。確かに、急ぎのメールが入ったりして見なければならぬ状況もあるのですが、そのようにして母乳を与えるのと、我が子を見て話しかけながら母乳を与えるのとでは、子どもに与える影響は雲泥の差なのではないでしょうか。せっかくの子育てのチャンスをなくすようなものです。

本校の保護者の皆様の中には、そのような方はいらっしゃると思いますが、もし近くにそうした方がおられれば、一言、アドバイス願います。

スマートフォンといえば、不忘山第26号に「スマホの時間 わたしは何を失うか」をポスターの紹介と共に書きました。自分用のスマートフォンやタブレットを持っているというお子さんもいると聞いております。ご家庭で決めたことですから、それはそれでよいのですが、是非、使い方については約束事を決めて、守らせるようにしてください。

何の約束事もなく自由に使うことは、決して子どもによい影響はないものと考えます。例えば、インターネット上の動画配信のサイトを見るようになれば、見たいときにいつでも見ることができます。これはとても便利ですが、その反面、我慢すべき時にも我慢できない子どもになってしまうことも考えられます。

これから与えようかと考えておられる場合は、本当に小学生に必要なものなのかお考えいただきたいと願っております。

